

＼ あらすじ ＼

Chapter 1

日本に初めて西洋医術をもたらした男、
南蛮船に乗ってやってくる！

16世紀半ば、日本はまだ漢方や民間療法が主流で、**医療は一部の特権階級だけのもの**でした。そんな時代に、遠くポルトガルから、のちに宣教医として九州地方で活躍することになる**ルイス・デ・アルメイダ**が来日します。

彼は西洋の医術を日本に初めて持ち込んだ人物であり、**大分市には彼の名を冠した「アルメイダ病院」がある**など、今もその精神は後世に受け継がれています。本作は、その**波乱に満ちた生涯を描く音楽劇**です。



▶ ルイス・デ・アルメイダ像

Chapter 2

差別を受け、医師になれなかったアルメイダ

裕福な家に生まれ、大学を出たあと王立病院で臨床医学を学び、**外科医の免許を取得したアルメイダ**。しかし彼は「マラーノ」と呼ばれる元ユダヤ教徒の子孫であったため**差別を受け、病院に勤務する道を閉ざされます**。失意のなか彼は医療を諦め、父の跡を継いで**貿易商人として大航海時代の海へ乗り出します**。

Chapter 3

運命を変えた出会いと決意

インドの港町ゴアで成功を収めたアルメイダ。同じくインドで布教していた**宣教師フランシスコ・ザビエル**の存在を知ります。強い使命と献身を信条とするザビエルの生き方はアルメイダの心を強く揺さぶりました。**貿易商、宣教、医療、どの道を選ぶのか一**。

自問自答を繰り返しながら海を渡り、日本に降り立ったアルメイダは、この地で**医療と宣教の道に進む決意**をします。



◀ 聖フランシスコ・ザビエル像
【大分市 / 遊歩公園】

Chapter 4

日本初の総合病院の誕生と試練

アルメイダは戦国大名 大友宗麟から土地を得、私財を投じて大分に外科・内科・入院施設・薬局・育児院を備えた総合病院を建設します。無料で治療を行い、日本人医師に西洋医術を教えるなど、その先進性は画期的でした。

しかし、根拠のない噂や宗教的な対立、そしてローマ本部からの「聖職者の医療禁止令」によって、彼は病院を離れざるを得なくなります。



▶ 大友宗麟公像
【大分市 / JR 大分駅北口】

Chapter 5

ヴィヴァ・ローダ（止まらない車輪）の最期

病院を去った後も、アルメイダは各地で布教と教育、文化交流に尽力しました。大友宗麟との友情、少年聖歌隊の設立、南蛮文化の普及— その活動は多岐にわたります。やむ無く離れた医療の道も、行く先々で出会う病に苦しむ人々を見捨てることなく尽力しました。晩年は天草の伝道院長となり、質素ながらも人々に慕われ、58歳でその生涯を閉じます。

多方面へと力を尽くした彼は敬意込めて「VIVA RODA（止まらない車輪）」と呼ばれました。日本の医療と福祉の礎を築いたアルメイダ。その活動と精神は今も大分の地に脈々と受け継がれています。



▶ 西洋医術発祥記念像
【大分市 / 遊歩公園】

▼ 府内病院模型

